

■ NPO交流促進事業 ■

①内容

NPO法人及びボランティア団体どうしの交流やこれら複数の団体が自分たちの活動を地域住民にPRするために、地域住民との交流や、ふれあいの場を設ける場合に、その事業費の一部を助成した。

②応募件数等 応募件数：22件 採択件数：9件

③事業の概要

No. 1

事業名	河川・海岸清掃交流活動推進事業
実施団体名	西彼杵河川・海岸愛護推進協議会 代表者 川原 好春（西海市）
事業内容	西彼杵河川・海岸愛護推進協議会のメンバーが中心となり地域の大人や子供たちに広く呼びかけを行い、団体が普段行っている活動（河川・海岸清掃）を推進すると共に、地域住民とのパートナーシップの構築を通じて、乱獲の防止、稚魚の放流、生態系の確保、清掃美化、木、花の植栽等、川や海岸を生かした魅力ある地域づくりを推進する。
実施時期	平成21年11月22日12:00~16:00 平成22年 3月21日 9:00~15:00
受益対象者及びその人数	西彼杵河川・海岸愛護推進協議会、西海市商工会青年部、青年部西彼支部、西勝、西海市議員団、こざくら学園、地域住民、子供会 等 11月：30名、3月：70名
事業の効果	稚魚の放流を行えた事により、命の大切さを参加メンバー全員が新たに考え、その事を地域に広める事により、乱獲の防止、さらにはゴミのポイ捨て厳禁に繋がる。
助成額	320千円

No. 2

事業名	総合スポーツ体験学習
実施団体名	NPO法人 総合スポーツPURE LIFE 代表者 東 祐介（長崎市）
事業内容	5歳の子どもからお年寄りの方まで幅広く参加いただき、ダンス、バスケットボール、バレー、バドミントン、陸上競技など、スポーツの楽しさを実感してもらった。運動不足の解消・生きがいづくり他、最近増えている子供たちの家庭での、ひきこもりや不登校を解消し、明るい社会、地域の活性化を目指す為、スポーツ体験学習を行った。
実施時期	平成22年1月17日（日）
受益対象者及びその人数	各種スポーツ指導者、お手玉の会他各団体より、5歳の子供から大人まで 62名

事業の効果	<p>スポーツの楽しさを知り、運動不足の解消・生きがいづくり、明るい社会、地域の活性化、町づくり等の促進効果があったものとする。また、人との触れ合いの中で、心を築くとともにいろいろな障害を乗り越えることで、個々人の可能性を引き出し、子どもたちの自己啓発にも効果があったものとする。</p> <p>参加者は目標を下回り、課題の残るイベントでもあったが、たくさんの人と触れ合い、いろんな団体の方と交流を図ることができ、団体の結束力も高まり、本当にやってよかったと思えるイベントが開催できた。</p>
助成額	331千円

No. 3

事業名	不登校・ひきこもりのNPO交流促進事業 ～手をつなごうNPO 伝えよう仲間へ～
実施団体名	フリースペースふきのとう 代表者 山北 眞由美（佐世保市）
事業内容	県内の不登校・ひきこもりの親の会や居場所を作っている人たちが集まり交流する。特に長崎県は離島をたくさん抱えているが、その島でも不登校児を持つ親がいる。閉鎖的な島の中で生きづらさを感じている人たちの参加を保障し、県内交流会を行った。
実施時期	平成22年2月28日13:00～16:00
受益対象者及びその人数	不登校・登校拒否・ひきこもりを持つ親・家族 100名
事業の効果	なかなか参加が出来なかった離島を中心にした交流で、閉鎖的な地域である島の中では話せない、一人で苦しんでいる姿が見えた。長崎県の現状は中学生の登校拒否増加率日本一位となっている。当事者の親が手がつなくことで、親の気持ちが楽になり、そのことが自信につながり、子ども自身がありのままの自分を受け入れていくことにつながる。
助成額	500千円

No. 4

事業名	いのちをつなぐ食育祭 i n 諫早 ～生ゴミリサイクル元気野菜ではじめよう～
実施団体名	かなや生活学校 代表者 山田 まさこ（諫早市）
事業内容	諫早市内の、生ゴミリサイクルや環境問題に取り組む団体・個人、一般参加者が知り合うきっかけ作りのため「いのちをつなぐ食育祭 i n 諫早」を実施した。また、食育に対する理解をより深めるとともに、食育祭によりできたネットワークを持続・定着させるため、交流学習会を全5回開催した。
実施時期	食育祭：平成21年10月10日（土） 学習会：平成21年11月～平成22年3月
受益対象者及びその人数	食育祭：326名（生活学校など実行委員が関連する団体、諫早市教育委員会の協力により公立保育園、幼稚園、小・中学校各児童生徒へチラシ配布、各マスコミへの広報による） 学習会全5回：のべ88名（食育祭アンケート記入者、実行委員関連団体への呼びかけによる）
事業の効果	乳幼児・未就学児を持つ母親、生ごみ減量・環境問題に取り組む団体、比較的年齢層の高い生活学校のメンバー、学校関係者、および個人的に活動をしてきた人など、今まで接点がなかったところに“食育”という共通したテーマで取り組むことにより、お互い親密になった。そこで、力を合わせて300人もの人を集めるイベントを成功させ、市民団体にとっては大きな経験となった。 食育祭・学習会を通して、知名度は高くなく小規模ながら、ほんものを伝え続けている県内の生産者の存在や、食の大切さを伝えることができた。 学習会を続けることにより、食育祭できっかけを持った団体・事業者と関連が深まり本当の食の安全安心に対する理解が深まるとともに、市議会議員なども関心を向けるようになり、より行政を巻き込んだ形での展開の可能性が出てきた。
助成額	410千円

No. 5

事業名	パパママ&地域の子育てカアップ事業
実施団体名	NPO法人 子どもと女性のエンパワメント佐世保 代表者 櫻井 英子（佐世保市）
事業内容	自分が住んでいる地域の人々とあまり関わりをもたずに子育てをし、家事・育児に追われて精神的にも余裕のない母親が多い中、地域の様々な人の中でともに子どもを育てていこうという気持ちを育てていく為の講座を開催する。 ・パパママの子育てカアップ講座 ・プレじいじ・ばあば講座
実施時期	平成21年11月26日～平成22年3月31日
受益対象者及びその人数	就学前の子どもをもつ親と地域の人々 270名
事業の効果	それぞれの講座の予算規模や実施手法などについて学ぶことができ、地域で活動する他団体との連携も強まった。また参加した保護者世代が、親子ひろばを拠点にしながら、自主的な活動をはじめのきっかけをつくった。
助成額	185千円

No. 6

事業名	長崎県内における世界遺産登録へ向けた市民活動団体のネットワークづくりと県民向けの普及活動についてのシンポジウム、ワーキング会議開催
実施団体名	長崎近代化遺産研究会 代表者 宮川 雅一（長崎市）
事業内容	世界遺産登録へ向けた活動は専門家や関係分野の研究や作業は進捗しているものの、一般の市民・県民への認識や普及を図るための活動、NPO・市民団体の交流や団体間の繋がり創りが必要であるため、横断的なネットワーク構築を行うためのシンポジウム及びワーキング会議を開催した。
実施時期	シンポジウム：平成22年2月6日 14：00～17：00 定例会及びワーキング会議：平成21年9月5日～平成22年3月21日
受益対象者及びその人数	「長崎の教会群とキリスト教関連施設」、「九州・山口の近代化遺産群」の世界遺産登録を目指し活動する各団体や研究機関、支援行政機関および一般県民、市民
事業の効果	長崎の世界遺産登録へ向けての市民側のNPO間ネットワークの形成が図られ、引き続き、情報交換やそれぞれの活動支援などでの交流や相互支援が継続される見通しである。また、長崎県、長崎市の各担当部局

	とのその情報の共有化が促進されたことを受けて、各団体の今後へ向けた役割と活動方針が再確認され、今後ますますの相互支援ネットワークが進行されていくものと思われる。
助成額	440千円

No. 7

事業名	認知症予防プログラムを通じた地域高齢者のコミュニティ育成事業
実施団体名	NPO法人 T. H. S 代表者 川副 功成（長崎市）
事業内容	空店舗を利用した認知症予防サロンを企画し、高齢者の生きいきとした暮らしと、自立した生活を支援する為の社会参加援助システム「トータル・ハビリテーション・システム」を実施した。高齢者の持つ能力を地域資源化する事で「気づき」「自信」を促し、その能力を地域のニーズに繋ぐ援助を行う事で、高齢者の「生きがい」や「役割」を再創出し、高齢者の認知症予防の活動を行った。
実施時期	平成21年10月1日～平成22年3月27日
受益対象者及びその人数	長崎市南部（野母崎、三和、香焼、深堀、土井首、小ヶ倉）に居住する65歳以上の高齢者 のべ320名
事業の効果	予防プログラムを通し、地域で、高い意識を持つ高齢者のコミュニティ形成の前段階が出来たことで、活動で得られる自信と生きがいで、生きいきとした暮らしや自立生活の重要性を、地域に向けて発信する事が出来た。また、高齢者自身が地域との積極的な関わりを持つ為の交流の場の創造と、自主的に集う高齢者グループが「認知症対策・介護予防推進」の必要性を自ら地域に発信し、啓発していくきっかけとなった。
助成額	485千円

No. 8

事業名	「長崎ねこ」シンポジウム開催
実施団体名	日本「長崎ねこ」学会 代表者 西島 茂行（長崎市）
事業内容	「尾曲がり猫研究」の第一人者であり遺伝学の権威である元京都大学（霊長類研究所）野澤謙教授を招聘し、長崎に多く生息する「尾曲がり猫」を「長崎ねこ」と名付け、「長崎ねこ」シンポジウムを長崎歴史文化博物館において開催した。イベントの継続化・多様化やキャラクターの展開など次段階への発展により、「長崎ねこ」を地域資源とした長崎の活性化を目指す。
実施時期	平成21年11月23日（月）
受益対象者及びその人数	120名

事業の効果	<p>シンポジウムの内容は、テレビ局3社、新聞5社が取材、当日夕方のニュースで報道されたほか、翌日の新聞でも報道され、「長崎ねこ」を全国に発信することができた。当学会活動と「長崎ねこ」の知名度は高まったものと考えられる。</p> <p>今後は、シンポジウムの継続と、観光客誘致の新たな資源となるよう活動を促進、強化していく。</p>
助成額	442千円

No. 9

事業名	対馬ボラ連 笑顔でつなげる「老人の主張大会」
実施団体名	対馬市民ボランティア連絡協議会 代表者 寺崎 俊治（対馬市）
事業内容	<p>意見発表という形で、高齢化率28%を超える対馬市の高齢者の皆さんが、どのようなことを考えていらっしゃるのかを知り、またボラ連会員同士等横のつながりを深め、お互いの団体の活動を理解し、共に事業を開催するメリットを体験して、効率的でより充実した事業の展開を行うと共に、地域のニーズを把握し、ボランティア連絡協議会としての活動を考えるきっかけづくりとなった。</p>
実施時期	平成22年3月14日 13:00~16:20
受益対象者及びその人数	ボランティア連絡協議会会員、ボランティアに興味のある方 250名
事業の効果	<p>会員間の横のつながりが出来つつあり、共に事業を開催しての達成感を感じられた。会員の中から、次の事業展開に向けての提案などもあがり、活動の広がりが期待できる。</p> <p>主張大会については、当初出演者の依頼等について難航したが、実際の大会になると各出演者とも熱く思いを語られ、時間が足りないほどであった。現在、ボラ連会員の中でも取り組んでいる事業内容などが課題として提案され、課題解決へ向けての協議を進めていかなければならない。</p> <p>このような機会を設けることにより、ボラ連として市民の活躍の場を提供し、課題解決へ向けて、共に活動するきっかけとなった。</p> <p>また、当日の参加者は250名と当初の目標まで達しなかったが、大会の状況を対馬市ケーブルテレビの特別編として放映され、大会の内容を参加されていなかった市民の方にも幅広く知っていただくことが出来たことも、きっかけづくりの一つとして効果があった。</p>
助成額	340千円